

1 自己評価及び外部評価結果

【事業所概要(事業所記入)】

事業所番号	2271100873		
法人名	株式会社 日本ケアクオリティ		
事業所名	グループホーム春1F		
所在地	静岡県沼津市岡一色450-1		
自己評価作成日	令和 3年 9月 28日	評価結果市町村受理日	令和3年12月15日

※事業所の基本情報は、公表センターページで閲覧してください。(↓このURLをクリック)

基本情報リンク先	https://www.kaijokensaku.mhlw.go.jp/22/index.php?action=kouhyou_detail_022_kani=true&JigyosyoCd=2271100873-00&ServiceCd=320&Type=search
----------	---

【評価機関概要(評価機関記入)】

評価機関名	株式会社 静岡タイム・エージェント		
所在地	静岡県静岡市葵区神明町52-34 1階		
訪問調査日	令和 3年 11月 6日		

【事業所が特に力を入れている点・アピールしたい点(事業所記入)】

<ul style="list-style-type: none"> ・入居者様の出来る事を自分のペースでしていただいています。(食器拭きなど) ・行事などがあれば一緒に壁飾りやレクリエーションの小物を作っていただいています。 ・職員さんの愛犬が来ている日は入居者様も職員も癒される状況がある

【外部評価で確認した事業所の優れている点、工夫点(評価機関記入)】

<p>コロナ禍で外出や家族との交流ができなくなり、事業所で利用者と職員との関りが深くなったため、利用者の気持ちを理解できるようになり、利用者が落ち着いてゆったり暮らすようになった。ホーム長はリーダーをおくことにより、職員の意見をリーダーがくみ取り、それをホーム長に伝えてもらえるようになり、意思疎通がとれるようになっている。また、必要に応じてホーム長が直接職員と話す機会も作っている。休憩時間はきっち現場から離れる、残業はしないなどが浸透して仕事にメリハリがついている。食事は職員の手作りで毎月の写真付きのお便りも家族からは好評である。法人はIT化を進めていて、職員の書類の記入の軽減を図っている。また、ベトナムから2人の実習生を受け入れ、職員の確保につながり、新人を教育する事により自分たちの業務を見直す機会になっている。</p>
--

V. サービスの成果に関する項目(アウトカム項目) ※項目No.1～55で日頃の取り組みを自己点検したうえで、成果について自己評価します

項目	取り組みの成果 ↓該当するものに○印	項目	取り組みの成果 ↓該当するものに○印
56 職員は、利用者の思いや願い、暮らし方の意向を掴んでいる (参考項目:23,24,25)	○ 1. ほぼ全ての利用者の 2. 利用者の2/3くらい 3. 利用者の1/3くらい 4. ほとんど掴んでいない	63 職員は、家族が困っていること、不安なこと、求めていることをよく聴いており、信頼関係ができている (参考項目:9,10,19)	○ 1. ほぼ全ての家族と 2. 家族の2/3くらいと 3. 家族の1/3くらいと 4. ほとんどできていない
57 利用者と職員が、一緒にゆったりと過ごす場面がある (参考項目:18,38)	○ 1. 毎日ある 2. 数日に1回程度ある 3. たまにある 4. ほとんどない	64 通いの場やグループホームに馴染みの人や地域の人々が訪ねて来ている (参考項目:2,20)	○ 1. ほぼ毎日のように 2. 数日に1回程度 3. たまに 4. ほとんどない
58 利用者は、一人ひとりのペースで暮らしている (参考項目:38)	○ 1. ほぼ全ての利用者が 2. 利用者の2/3くらいが 3. 利用者の1/3くらいが 4. ほとんどいない	65 運営推進会議を通して、地域住民や地元の関係者とのつながりが拡がったり深まり、事業所の理解者や応援者が増えている (参考項目:4)	○ 1. 大いに増えている 2. 少しずつ増えている 3. あまり増えていない 4. 全くない
59 利用者は、職員が支援することで生き生きした表情や姿がみられている (参考項目:36,37)	○ 1. ほぼ全ての利用者が 2. 利用者の2/3くらいが 3. 利用者の1/3くらいが 4. ほとんどいない	66 職員は、生き活きと働いている (参考項目:11,12)	○ 1. ほぼ全ての職員が 2. 職員の2/3くらいが 3. 職員の1/3くらいが 4. ほとんどいない
60 利用者は、戸外の行きたいところへ出かけている (参考項目:49)	○ 1. ほぼ全ての利用者が 2. 利用者の2/3くらいが 3. 利用者の1/3くらいが 4. ほとんどいない	67 職員から見て、利用者はサービスにおおむね満足していると思う	○ 1. ほぼ全ての利用者が 2. 利用者の2/3くらいが 3. 利用者の1/3くらいが 4. ほとんどいない
61 利用者は、健康管理や医療面、安全面で不安なく過ごしている (参考項目:30,31)	○ 1. ほぼ全ての利用者が 2. 利用者の2/3くらいが 3. 利用者の1/3くらいが 4. ほとんどいない	68 職員から見て、利用者の家族等はサービスにおおむね満足していると思う	○ 1. ほぼ全ての家族等が 2. 家族等の2/3くらいが 3. 家族等の1/3くらいが 4. ほとんどできていない
62 利用者は、その時々状況や要望に応じた柔軟な支援により、安心して暮らしている (参考項目:28)	○ 1. ほぼ全ての利用者が 2. 利用者の2/3くらいが 3. 利用者の1/3くらいが 4. ほとんどいない		

自己評価および外部評価結果

自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
I. 理念に基づく運営					
1	(1)	○理念の共有と実践 地域密着型サービスの意義をふまえた事業所理念をつくり、管理者と職員は、その理念を共有して実践につなげている	理念はフロア入り口に掲示してあります。申し送り時は必ず唱和しています。	1日3回の申し送り時には参加している職員で利絵念を唱和を行い、月1回の会議の際にも理念の実践についてホーム長から啓発をしている。法人の行うテストでは理念の記入欄があり、職員は常に意識づけされているので概ね記入されている。	
2	(2)	○事業所と地域とのつきあい 利用者が地域とつながりながら暮らし続けられるよう、事業所自体が地域の一員として日常的に交流している	現在はコロナの感染防止にて地域の行事等が開催されておらず参加できていない。散歩をしている時に挨拶はしている。	自治会長の紹介で「まちこみメール」を閲覧できるようになり、地域行事や防災、ゴミに関する情報、不審者情報を得られるようになり、更に地域とのつながりを大切にしている。11月には2年ぶりに町内一斉清掃があり、ホーム長と職員が参加予定である。	
3		○事業所の力を活かした地域貢献 事業所は、実践を通じて積み上げている認知症の人の理解や支援の方法を、地域の人々に向けて活かしている	現在は感染防止のため活動はしていないがキャラバンメイトや認知症サポーターがいる事業所として地域包括との連携を図っている。	/	/
4	(3)	○運営推進会議を活かした取り組み 運営推進会議では、利用者やサービスの実際、評価への取り組み状況等について報告や話し合いを行い、そこでの意見をサービス向上に活かしている	現在コロナ感染予防にて書面での会議となっています。書面で返答をもらっています。	今年度は市の要請により書面開催を行い、開催の前に議事内容と返送用意見書を同封して意見を伺っている。2～3家族から意見を頂いたり、地域包括支援センターの職員からは毎回意見を頂いている。前回の外部評価後、家族に個別に声かけを行ったため、今後参加家族が増える予定である。	
5	(4)	○市町村との連携 市町村担当者と日頃から連絡を密に取り、事業所の実情やケアサービスの取り組みを積極的に伝えながら、協力関係を築くように取り組んでいる	介護相談員さんが月一回来られています。また、生活保護の方がいるので市役所の担当者に毎月お便りを出したりしている。	介護相談員はコロナ後も継続して訪問してくれているが、あまり話ができず、30分位で様子を見て気になることを指摘してくれるようになっている。地域包括支援センターとは頻りにやりとりがあり、協力関係を築いている。	
6	(5)	○身体拘束をしないケアの実践 代表者及び全ての職員が「指定地域密着型サービス指定基準及び指定地域密着型介護予防サービス指定基準における禁止の対象となる具体的な行為」を正しく理解しており、玄関の施錠を含めて身体拘束をしないケアに取り組んでいる	法人内、ホーム内で身体拘束廃止委員会の会議、その後研修会を行っている。玄関は夜間のみ施錠している。	マニュアルは整備されており、法人で各事業所から1～3名の参加で年に4回委員会を開催しその後ホーム内で委員会を行い、身体拘束をしないケアに取り組んでいる。ホームでも虐待の種類、スピーチロック、テーマに沿った討論会、事例検討と年4回研修を開催している。	

静岡県(グループホーム春)

自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
7		○虐待の防止の徹底 管理者や職員は、高齢者虐待防止関連法について学ぶ機会を持ち、利用者の自宅や事業所内での虐待が見逃ごされることがないように注意を払い、防止に努めている	委員会を中心に勉強会の実施、話し合いを行っています。 身体拘束ゼロ宣言は常に掲示してあります。		
8		○権利擁護に関する制度の理解と活用 管理者や職員は、日常生活自立支援事業や成年後見制度について学ぶ機会を持ち、個々の必要性を関係者と話し合い、それらを活用できるよう支援している	成年後見制度を利用している方もいるので理解は深めているが今後も勉強会等を行っていく。		
9		○契約に関する説明と納得 契約の締結、解約又は改定等の際は、利用者や家族等の不安や疑問点を尋ね、十分な説明を行い理解・納得を図っている	契約前の相談時に不安や疑問点を話し合う時間を設けています。ケアマネや管理者が対応している。		
10	(6)	○運営に関する利用者、家族等意見の反映 利用者や家族等が意見、要望を管理者や職員ならびに外部者へ表せる機会を設け、それらを運営に反映させている	ご入居者様の話は常に耳を傾けている。ご家族様には受電時や来訪時などに意見や要望を伺い運営に反映させている。	運営推進会議の前に家族に意見を伺っている。電話や家族の窓越し面会の時にも意見を聞くようにしてる。頂いた意見や要望は月に1回の会議や申し送りノートで情報共有し、運営に反映させるようにしている。	
11	(7)	○運営に関する職員意見の反映 代表者や管理者は、運営に関する職員の意見や提案を聞く機会を設け、反映させている	会議内で意見が言えるようにしている。職員はリーダーへ話し管理者へ報告。管理者は代表者への意見の提案等している。	ホーム長は職員の出勤時に声かけをして気軽に話が出来環境づくりをしている。年に2回個別面談を行っている。職員は細かいことはリーダーに相談しているが、月の会議ではすべての職員が発言するようにリーダーが促すなど職員からの意見の抽出と把握に努めている。	
12		○就業環境の整備 代表者は、管理者や職員個々の努力や実績、勤務状況を把握し、給与水準、労働時間、やりがいなど、各自が向上心を持って働けるよう職場環境条件の整備に努めている	休憩時間や就業時間はきちんと時間を決めてる。時間内で帰れるように業務の見直しを行っている。また評価を年2回している。面談も行っている。		
13		○職員を育てる取り組み 代表者は、管理者や職員一人ひとりのケアの実際と力量を把握し、法人内外の研修を受ける機会の確保や、働きながらトレーニングしていくことを進めている	社内研修、ホーム研修、外部研修があるが感染対策にて外部研修に参加できていない現状がある。		

静岡県(グループホーム春)

自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
14		○同業者との交流を通じた向上 代表者は、管理者や職員が同業者と交流する機会を作り、ネットワークづくりや勉強会、相互訪問等の活動を通じて、サービスの質を向上させていく取り組みをしている	管理者会議は月一回行われており他ホームとの意見交換をしている。今後はリーダー会議(法人内)も開催予定。 他ホームとの職員交流が出来る状況になると質も上がっていくと思っています。		
II. 安心と信頼に向けた関係づくりと支援					
15		○初期に築く本人との信頼関係 サービスを導入する段階で、本人が困っていること、不安なこと、要望等に耳を傾けながら、本人の安心を確保するための関係づくりに努めている	不安なことや困っていきそうときには話を聞くようにしている。また入居初期にかかわらず会話を増やすように努めている。		
16		○初期に築く家族等との信頼関係 サービスを導入する段階で、家族等が困っていること、不安なこと、要望等に耳を傾けながら、関係づくりに努めている	入居の前に管理者・ケアマネがご家族様と話をし要望などを伺い早期に対応市信頼関係の構築に努めている。		
17		○初期対応の見極めと支援 サービスを導入する段階で、本人と家族等が「その時」まず必要としている支援を見極め、他のサービス利用も含めた対応に努めている	ご家族、ご本人様との話を元に何が必要なのかを見極め支援に努めている。 必要あれば電動ベッドや車いすの用意等もしている。		
18		○本人と共に過ごし支えあう関係 職員は、本人を介護される一方の立場におかず、暮らしを共にする者同士の関係を築いている	本人の出来る事はなるべく任せるようにしている。食器拭き、洗濯などみんなで無理のないようにやっている。		
19		○本人を共に支えあう家族との関係 職員は、家族を支援される一方の立場におかず、本人と家族の絆を大切にしながら、共に本人を支えていく関係を築いている	毎月お便りにてご本人様の様子を写真付きで報告させて頂いている。また、現在は窓越しでの面会だが常にできるようにしている。		
20	(8)	○馴染みの人や場との関係継続の支援 本人がこれまで大切にしてきた馴染みの人や場所との関係が途切れないよう、支援に努めている	友人や親族様の面会も行っている。 ご希望があれば、なじみの床屋や歯科医へ行かれる方もいます(現在は感染予防で行っていない)	コロナ禍ではあるが感染症対策を取りながら窓越し面会やリモート面会を継続し、家族との関係継続の支援を図っている。インプラントを行った利用者には継続してかかりつけ歯科医に通院介助をしている。	

静岡県(グループホーム春)

自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
21		○利用者同士の関係の支援 利用者同士の関係を把握し、一人ひとりが孤立せずに利用者同士が関わり合い、支え合えるような支援に努めている	ご入居者様同士で自由に話をいただいています。トラブルになりそうな時には職員が間に入って対応しています。		
22		○関係を断ち切らない取組み サービス利用(契約)が終了しても、これまでの関係性を大切にしながら、必要に応じて本人・家族の経過をフォローし、相談や支援に努めている	職員によるフォローは出来ていないが管理者やケアマネは対応しています。		
Ⅲ. その人らしい暮らしを続けるためのケアマネジメント					
23	(9)	○思いや意向の把握 一人ひとりの思いや暮らし方の希望、意向の把握に努めている。困難な場合は、本人本位に検討している	ご本人様に伺ったり観察により行動を把握している。カンファレンス等で以降の把握を共有している	入居前にフェイスシートに家族からの話や本人の意向、前のケアマネジャーの意見等記入し職員は利用者の思いや暮らし方の希望を把握するよう努めている。意思表示の困難な利用者は表情やちょっとした変化を観察して申し送りノートで職員が共有し、日々の支援に繋げている。	
24		○これまでの暮らしの把握 一人ひとりの生活歴や馴染みの暮らし方、生活環境、これまでのサービス利用の経過等の把握に努めている	ご本人、ご家族様、以前のケアマネなどからの情報を得て共有し把握に努めている。		
25		○暮らしの現状の把握 一人ひとりの一日の過ごし方、心身状態、有する力等の現状の把握に努めている	今までの生活になるべく近い形で生活していけるように職員間での情報共有に努め対応している。		
26	(10)	○チームでつくる介護計画とモニタリング 本人がより良く暮らすための課題とケアのあり方について、本人、家族、必要な関係者と話し合い、それぞれの意見やアイデアを反映し、現状に即した介護計画を作成している	カンファレンスの前に職員一人一人がモニタリングを行いその資料を元に課題やケアについて話をしている。	介護計画更新時に職員全員で、該当する利用者のモニタリングを独自の表で行っている。それに基づいて会議でカンファレンスをしている。日頃のチェックはタブレットや紙で管理している。	
27		○個別の記録と実践への反映 日々の様子やケアの実践・結果、気づきや工夫を個別記録に記入し、職員間で情報を共有しながら実践や介護計画の見直しに活かしている	日々のケアについてや工夫等は申し送りノートを活用したり情報共有し実践や見直しを行っている。		

静岡県(グループホーム春)

自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
28		○一人ひとりを支えるための事業所の多機能化 本人や家族の状況、その時々生まれるニーズに対応して、既存のサービスに捉われない、柔軟な支援やサービスの多機能化に取り組んでいる	ご本人様の状態の変化等は都度話をし変化 するニーズについて共有し対応しています。		
29		○地域資源との協働 一人ひとりの暮らしを支えている地域資源を把握し、本人が心身の力を発揮しながら安全で豊かな暮らしを楽しむことができるよう支援している	現在は感染予防にて地域との関わりが無い。感染拡大前は地域行事への参加をしたり地域のスーパーへ買い物へ行ったりしていた。		
30	(11)	○かかりつけ医の受診支援 受診は、本人及び家族等の希望を大切に、納得が得られたかかりつけ医と事業所の関係を築きながら、適切な医療を受けられるように支援している	かかりつけ医による往診があります。気になる事なども相談させてもらっています。医師・看護師との24時間の連絡も可能な状況。御家族様が受診対応して下さる事もあるので普段の様子などしっかりと伝えスムーズに良い関係が出来る様になっています。	2名の利用者が以前からの医療機関を受診し、それ以外は協力医に月2回往診してもらっている。協力医は24時間オンコール、訪問看護師も24時間対応しており急な体調変化時の相談はまず看護師に連絡をしている。精神科脳外科は家族対応だが必要に応じてホーム長が同行している。	
31		○看護職との協働 介護職は、日常の関わりの中でとらえた情報や気づきを、職場内の看護職や訪問看護師等に伝えて相談し、個々の利用者が適切な受診や看護を受けられるように支援している	週1回、訪問看護師が健康管理に来られています。入居者様の健康上の相談をさせて頂いています。		
32		○入退院時の医療機関との協働 利用者が入院した際、安心して治療できるように、又、できるだけ早期に退院できるように、病院関係者との情報交換や相談に努めている。あるいは、そうした場合に備えて病院関係者との関係づくりを行っている	入院中も管理者が中心に医師・看護師・御家族様とで情報共有している。入院中から早期に退院できるように連携を図っている。退院時には書面にて情報をいただいているのでフロア全員で共有している。また協力医、看護師にも情報共有し連携をとっています。		
33	(12)	○重度化や終末期に向けた方針の共有と支援 重度化した場合や終末期のあり方について、早い段階から本人・家族等と話し合いを行い、事業所でできることを十分に説明しながら方針を共有し、地域の関係者と共にチームで支援に取り組んでいる	入居時に確認させて頂いています。重度化してきた際は主治医、ご家族様、関係者が話をしご本人様、御家族様の要望・意向を取り入れさせて頂き出来る限りの支援をさせて頂いています。	入居前に施設の方針や重度化の指針を説明し、書面で同意を得ている。重度化した際には医師が家族に状態を説明し、再度、家族の意向を伺って支援している。看取りの研修も行っている。今年度は静岡市の訪問クリニックの医師から重度化、終末期についての話を聞く予定である。	
34		○急変や事故発生時の備え 利用者の急変や事故発生時に備えて、全ての職員は応急手当や初期対応の訓練を定期的に行い、実践力を身に付けている	緊急時や事故のマニュアルあり。誰もが見る事が出来る所に置いてあります。法人内、ホーム内に置いて委員会設置があり見直し等行っています。		

静岡県(グループホーム春)

自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
35	(13)	○災害対策 火災や地震、水害等の災害時に、昼夜を問わず利用者が避難できる方法を全職員が身につけるとともに、地域との協力体制を築いている	防災委員会を中心に点検や訓練を行っています。現在は感染予防にて中止されており参加出来ていないが地域の訓練に参加もしています。炊出し訓練や器具の使用方法などの訓練もしています。	備蓄は5日分リストを作り、毎月チェックし、ローリングストックしている。年に2回停電想定炊出し訓練と総合防災訓練を行い、検証をしている。前回の外部評価で指摘された夜間想定訓練を行い検証した。大雨の時には実際に垂直避難を行った。	日頃から地域との連携が取れているので防災訓練に地域の方の参加を促し、意見を伺えるよう期待します。長期停電の対策を法人と話し合い対策を検討される様希望します。
IV. その人らしい暮らしを続けるための日々の支援					
36	(14)	○一人ひとりの人格の尊重とプライバシーの確保 一人ひとりの人格を尊重し、誇りやプライバシーを損ねない言葉かけや対応をしている	ご本人様の気持ちを尊重しその方に合った言葉かけや対応が出来るように心がけています。	職員は自ら発言できない利用者の様子を観察し、寄り添ってくみ取るよう、気持ちに沿うようにしている。職員研修も随時行い、利用者一人ひとりの人格を尊重した言葉かけができるよう努めている。	利用者との会話だけではなく表情からちょっとした変化を見落とさずにケア出来るよう希望します。また時々言葉がけに親しみが有り過ぎて節度がなくなっている様子が伺えるので気をつけて言葉かけ出来るよう期待します。
37		○利用者の希望の表出や自己決定の支援 日常生活の中で本人が思いや希望を表したり、自己決定できるように働きかけている	自己決定が出来る様にその方の思いや希望などを聞かせて頂くようにしています。		
38		○日々のその人らしい暮らし 職員側の決まりや都合を優先するのではなく、一人ひとりのペースを大切に、その日をどのように過ごしたいか、希望にそって支援している	ご本人様の体調やペースを見ながら無理強いせずにご過ごせるようにしています。		
39		○身だしなみやおしゃれの支援 その人らしい身だしなみやおしゃれができるように支援している	ご自分で選べる方には好きな洋服を着ていただいています。選ぶのが困難な方にもご本人様の好きな色や柄のものや着やすいものをお聞きしながら着ていただいています。		
40	(15)	○食事を楽しむことのできる支援 食事が楽しみなものになるよう、一人ひとりの好みや力を活かしながら、利用者と職員と一緒に準備や食事、片付けをしている	下ごしらえを手伝ってくださったり食器拭きや盛り付けなどを一緒に行っています。今は感染対策にて出来ませんが以前は職員も一緒に会話をしながらご飯を食べていました。	毎日の献立は食材を見て職員が考え調理している。利用者の誕生日に希望を聞いたり、クリスマスには各ユニットの職員代表が相談してメニューを決めている。コロナ前は職員と利用者で食材の買い出しに出かけていたが今は注文し配達してもらっている。朝食には納豆、ヨーグルトを添えたり、干し柿も職員と利用者で作るなど食を楽しむ工夫をしている。	
41		○栄養摂取や水分確保の支援 食べる量や栄養バランス、水分量が一日を通じて確保できるよう、一人ひとりの状態や力、習慣に応じた支援をしている	その方に合った量やバランスを考え提供しています。それぞれに合わせて形態も変えご用意させて頂いています。		

静岡県(グループホーム春)

自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
42		○口腔内の清潔保持 口の中の汚れや臭いが生じないよう、毎食後、一人ひとりの口腔状態や本人の力に応じた口腔ケアをしている	一人一人に合わせた口腔ケアを行っています。 また週1回は歯科衛生士が来てブラッシングを受けている方もいます。		
43	(16)	○排泄の自立支援 排泄の失敗やおむつの使用を減らし、一人ひとりの力や排泄のパターン、習慣を活かして、トイレでの排泄や排泄の自立にむけた支援を行っている	一人一人の排泄パターンの把握に努めている。訴えがある方、誘導が必要な方についても排泄パターンを共有し対応しています。なるべく失敗のないように、清潔が保てるように支援に当たっている。	利用者の排泄パターンを把握し、記録はタブレットに入力している。日中、夜間に時間や利用者の様子を見て声かけをし、トイレ誘導をしている。各ユニットに1~2人布パンツに失禁パットで過ごされている利用者がある。便秘の改善にヨーグルトを朝食時に提供している。	
44		○便秘の予防と対応 便秘の原因や及ぼす影響を理解し、飲食物の工夫や運動への働きかけ等、個々に応じた予防に取り組んでいる	食事に納豆やヨーグルトを提供したり水分摂取にも気を付けています。状況に応じて寒天やお好きな飲み物を提供している。必要時は腹部マッサージをしたりする。		
45	(17)	○入浴を楽しむことができる支援 一人ひとりの希望やタイミングに合わせて入浴を楽しめるように、職員の都合で曜日や時間帯を決めてしまわずに、個々にそった支援をしている	体調を伺いながら3日に一回は入浴できるようにしていただいています。入浴できない方は全身清拭することもあります。また、入浴剤を使用したり唄いながら楽しく入浴できるようにしています。	1日3人を目安に午前中に入浴支援をしている。午後に希望する利用者にも柔軟に対応している。職員は声かけや入浴剤を使用したり、冬場は浴室や脱衣室を暖かくして気持ちよくゆったりと入浴してもらえるように整備している。	
46		○安眠や休息の支援 一人ひとりの生活習慣やその時々状況に応じて、休息したり、安心して気持ちよく眠れるよう支援している	シーツ交換をするなど気持ちよく休息できるようにしています。また体調を見ながら休息して頂いています。		
47		○服薬支援 一人ひとりが使用している薬の目的や副作用、用法や用量について理解しており、服薬の支援と症状の変化の確認に努めている	服薬表にてチェックを行っています。医師、看護師、薬剤師との連携を図り情報共有し周知しています。また個人ごとのファイルにて副作用等の確認も行っています。		
48		○役割、楽しみごとの支援 張り合いや喜びのある日々を過ごせるように、一人ひとりの生活歴や力を活かした役割、嗜好品、楽しみごと、気分転換等の支援をしている	一人一人に役割を持っていただき無理強いないで行っています。みんなで歌ったりTVやDVDを観たり楽しんでいます。		

静岡県(グループホーム春)

自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
49	(18)	○日常的な外出支援 一人ひとりのその日の希望にそって、戸外に出かけられるよう支援に努めている。又、普段は行けないような場所でも、本人の希望を把握し、家族や地域の人々と協力しながら出かけられるように支援している	現在は感染予防にて出かけておりません。以前は誕生日に食事に行ったり近くのコンビニにコーヒーを飲みに行ったり出かけていました。	感染症対策を取りながら、施設前の道を少し散歩したり、近くのお寺まで歩くのが主になっている。コロナ前は食材の買い出しや外食に出かけたり、家族と一緒に外食をする利用者もいた。コロナが収束後は以前と同様に外出支援を計画している。	
50		○お金の所持や使うことの支援 職員は、本人がお金を持つことの大切さを理解しており、一人ひとりの希望や力に応じて、お金を所持したり使えるように支援している	お金を持っている方は少ないです。欲しいものはご家族様に依頼したり職員が買い物に行き対応しています。		
51		○電話や手紙の支援 家族や大切な人に本人自らが電話をしたり、手紙のやり取りができるように支援をしている	希望があれば都度対応しています。		
52	(19)	○居心地のよい共用空間づくり 共用の空間(玄関、廊下、居間、台所、食堂、浴室、トイレ等)が、利用者にとって不快や混乱をまねくような刺激(音、光、色、広さ、温度など)がないように配慮し、生活感や季節感を採り入れて、居心地よく過ごせるような工夫をしている	照明や温度など気を付けています。またみんなで季節の飾りなどを作成し飾ったりしています。	居間や食堂には窓が多く、明るく換気が良い。清掃専門の職員が月～金に念入りに清掃するなど環境整備にも注力している。季節を感じる作品を利用者と職員で作成し、掲示している。また、職員の飼い犬と一緒に出勤し利用者の癒しになっている。	
53		○共用空間における一人ひとりの居場所づくり 共用空間の中で、独りになれたり、気の合った利用者同士で思い思いに過ごせるような居場所の工夫をしている	お部屋でゆっくりと過ごされる方がいたり編み物や本を読む方もいます。居間ではお話をされていたりテレビを観ている方もいます。		
54	(20)	○居心地よく過ごせる居室の配慮 居室あるいは泊まりの部屋は、本人や家族と相談しながら、使い慣れたものや好みのものを活かして、本人が居心地よく過ごせるような工夫をしている	ご本人様が使用していた物やなじみの物を使ったりベッドの配置など今までの生活と変わらないようにしています。	クローゼットに紙おむつやリハビリパンツ、衣類、季節の物が整理収納されている。テレビや家具は入居前の暮らしに近づけるように配置され、仏壇、テーブル、座布団、座りやすい椅子など馴染みの物を持ち込んでテレビをみたり、編み物をしたりなど利用者が居心地よく過ごされる支援をしている。居室の清掃をされる方や、自分用の掃除機を所持されている方もいる。	
55		○一人ひとりの力を活かした安全な環境づくり 建物内部は一人ひとりの「できること」「わかること」を活かして、安全かつできるだけ自立した生活が送れるように工夫している	動線上に物を置かないようにしたり希望あれば居室入り口などに目印をつけたりその人に合った対応を心がけています。		

1 自己評価及び外部評価結果

【事業所概要(事業所記入)】

事業所番号	2271100873		
法人名	株式会社 日本ケアクオリティ		
事業所名	グループホーム春2F		
所在地	静岡県沼津市岡一色450-1		
自己評価作成日	令和 3年 9月 28日	評価結果市町村受理日	令和3年12月15日

※事業所の基本情報は、公表センターページで閲覧してください。(↓このURLをクリック)

基本情報リンク先 https://www.kaijokensaku.mhlw.go.jp/22/index.php?action=kouhyou_detail_022_kani=true&JigyosyoCd=2271100873-00&ServiceCd=320&Type=search

【評価機関概要(評価機関記入)】

評価機関名	株式会社 静岡タイム・エージェント		
所在地	静岡県静岡市葵区神明町52-34 1階		
訪問調査日	令和 3年 11月 6日		

【事業所が特に力を入れている点・アピールしたい点(事業所記入)】

入居者様の負担にならないように気を付けながら出来る事をやっていたいただき残存機能の低下を防ぎ役割をもっていただけるように支援に努めています。

【外部評価で確認した事業所の優れている点、工夫点(評価機関記入)】

V. サービスの成果に関する項目(アウトカム項目) ※項目No.1～55で日頃の取り組みを自己点検したうえで、成果について自己評価します

項目		取り組みの成果 ↓該当するものに○印		項目		取り組みの成果 ↓該当するものに○印	
56	職員は、利用者の思いや願い、暮らし方の意向を掴んでいる (参考項目:23,24,25)	○	1. ほぼ全ての利用者の 2. 利用者の2/3くらい 3. 利用者の1/3くらい 4. ほとんど掴んでいない	63	職員は、家族が困っていること、不安なこと、求めていることをよく聴いており、信頼関係ができている (参考項目:9,10,19)	○	1. ほぼ全ての家族と 2. 家族の2/3くらいと 3. 家族の1/3くらいと 4. ほとんどできていない
57	利用者と職員が、一緒にゆったりと過ごす場面がある (参考項目:18,38)	○	1. 毎日ある 2. 数日に1回程度ある 3. たまにある 4. ほとんどない	64	通いの場やグループホームに馴染みの人や地域の人々が訪ねて来ている (参考項目:2,20)	○	1. ほぼ毎日のように 2. 数日に1回程度 3. たまに 4. ほとんどない
58	利用者は、一人ひとりのペースで暮らしている (参考項目:38)	○	1. ほぼ全ての利用者が 2. 利用者の2/3くらいが 3. 利用者の1/3くらいが 4. ほとんどいない	65	運営推進会議を通して、地域住民や地元の関係者とのつながりが拡がったり深まり、事業所の理解者や応援者が増えている (参考項目:4)	○	1. 大いに増えている 2. 少しずつ増えている 3. あまり増えていない 4. 全くない
59	利用者は、職員が支援することで生き生きした表情や姿がみられている (参考項目:36,37)	○	1. ほぼ全ての利用者が 2. 利用者の2/3くらいが 3. 利用者の1/3くらいが 4. ほとんどいない	66	職員は、生き活きと働いている (参考項目:11,12)	○	1. ほぼ全ての職員が 2. 職員の2/3くらいが 3. 職員の1/3くらいが 4. ほとんどいない
60	利用者は、戸外の行きたいところへ出かけている (参考項目:49)	○	1. ほぼ全ての利用者が 2. 利用者の2/3くらいが 3. 利用者の1/3くらいが 4. ほとんどいない	67	職員から見て、利用者はサービスにおおむね満足していると思う	○	1. ほぼ全ての利用者が 2. 利用者の2/3くらいが 3. 利用者の1/3くらいが 4. ほとんどいない
61	利用者は、健康管理や医療面、安全面で不安なく過ごせている (参考項目:30,31)	○	1. ほぼ全ての利用者が 2. 利用者の2/3くらいが 3. 利用者の1/3くらいが 4. ほとんどいない	68	職員から見て、利用者の家族等はサービスにおおむね満足していると思う	○	1. ほぼ全ての家族等が 2. 家族等の2/3くらいが 3. 家族等の1/3くらいが 4. ほとんどできていない
62	利用者は、その時々状況や要望に応じた柔軟な支援により、安心して暮らしている (参考項目:28)	○	1. ほぼ全ての利用者が 2. 利用者の2/3くらいが 3. 利用者の1/3くらいが 4. ほとんどいない				

自己評価および外部評価結果

自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
I. 理念に基づく運営					
1	(1)	○理念の共有と実践 地域密着型サービスの意義をふまえた事業所理念をつくり、管理者と職員は、その理念を共有して実践につなげている	理念は誰もが見える場所に掲示してあり実践できるように申し送り時にも唱えるようにしています。		
2	(2)	○事業所と地域とのつきあい 利用者が地域とつながりながら暮らし続けられるよう、事業所自体が地域の一員として日常的に交流している	感染予防にて現在は行えていません。		
3		○事業所の力を活かした地域貢献 事業所は、実践を通じて積み上げている認知症の人の理解や支援の方法を、地域の人々に向けて活かしている	運営推進会議等で認知症の方への支援などの報告を行っています。		
4	(3)	○運営推進会議を活かした取り組み 運営推進会議では、利用者やサービスの実際、評価への取り組み状況等について報告や話し合いを行い、そこでの意見をサービス向上に活かしている	現在は書面での報告や意見をいただくようにしています。 ホーム内の状況や事故・入退去状況等を報告し頂いた意見をサービスに生かせるようにしています。		
5	(4)	○市町村との連携 市町村担当者と日頃から連絡を密に取り、事業所の実情やケアサービスの取り組みを積極的に伝えながら、協力関係を築くように取り組んでいる	市の介護相談員さんが来ています。		
6	(5)	○身体拘束をしないケアの実践 代表者及び全ての職員が「指定地域密着型サービス指定基準及び指定地域密着型介護予防サービス指定基準における禁止の対象となる具体的な行為」を正しく理解しており、玄関の施錠を含めて身体拘束をしないケアに取り組んでいる	身体拘束廃止委員会を設置して定期的に勉強会を行っています。		

静岡県(グループホーム春)

自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
7		○虐待の防止の徹底 管理者や職員は、高齢者虐待防止関連法について学ぶ機会を持ち、利用者の自宅や事業所内での虐待が見逃ごされることがないように注意を払い、防止に努めている	勉強会を行い職員同士で例を出すなどしながら話し合い防止に努めています。		
8		○権利擁護に関する制度の理解と活用 管理者や職員は、日常生活自立支援事業や成年後見制度について学ぶ機会を持ち、個々の必要性を関係者と話し合い、それらを活用できるよう支援している	勉強会は定期的に行っているが今後も全員が理解できるようにしていきたい。		
9		○契約に関する説明と納得 契約の締結、解約又は改定等の際は、利用者や家族等の不安や疑問点を尋ね、十分な説明を行い理解・納得を図っている	契約の前に不安なことなどは聞くようになっています。また、契約時にしっかりと丁寧に説明し同意を得るようにしています。		
10	(6)	○運営に関する利用者、家族等意見の反映 利用者や家族等が意見、要望を管理者や職員ならびに外部者へ表せる機会を設け、それらを運営に反映させている	お便りや運営推進会議などでご家族様の意見を聞ける体制にしています。		
11	(7)	○運営に関する職員意見の反映 代表者や管理者は、運営に関する職員の意見や提案を聞く機会を設け、反映させている	リーダーを中心に会議で意見を聞くようになっている。リーダーは管理者に報告。必要あれば管理者が代表者へ報告するようになっている。		
12		○就業環境の整備 代表者は、管理者や職員個々の努力や実績、勤務状況を把握し、給与水準、労働時間、やりがいなど、各自が向上心を持って働けるよう職場環境・条件の整備に努めている	休憩時間や就業時間は決まっている。臨機応変に対応するようにしている。		
13		○職員を育てる取り組み 代表者は、管理者や職員一人ひとりのケアの実際と力量を把握し、法人内外の研修を受ける機会の確保や、働きながらトレーニングしていくことを進めている	ホーム内にて勉強会が行われています。		

静岡県(グループホーム春)

自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
14		○同業者との交流を通じた向上 代表者は、管理者や職員が同業者と交流する機会を作り、ネットワークづくりや勉強会、相互訪問等の活動を通じて、サービスの質を向上させていく取り組みをしている	社内の委員会等で他のホームとリモートで意見交換したり勉強会をしています。		
II. 安心と信頼に向けた関係づくりと支援					
15		○初期に築く本人との信頼関係 サービスを導入する段階で、本人が困っていること、不安なこと、要望等に耳を傾けながら、本人の安心を確保するための関係づくりに努めている	情報や意向を把握しみんなで共有しながら笑顔で対応するように心がけて信頼関係を築けるようにしています。		
16		○初期に築く家族等との信頼関係 サービスを導入する段階で、家族等が困っていること、不安なこと、要望等に耳を傾けながら、関係づくりに努めている	入居の相談時等に管理者やケアマネがご家族様と話す機会を設けており、要望等を伺っています。		
17		○初期対応の見極めと支援 サービスを導入する段階で、本人と家族等が「その時」まず必要としている支援を見極め、他のサービス利用も含めた対応に努めている	頂いた情報からその時々に必要なサービスを提供するようにさせて頂いています。		
18		○本人と共に過ごし支えあう関係 職員は、本人を介護される一方の立場におかず、暮らしを共にする者同士の関係を築いている	日常の家事等を一緒に行ったり助け合っています。		
19		○本人を共に支えあう家族との関係 職員は、家族を支援される一方の立場におかず、本人と家族の絆を大切にしながら、共に本人を支えていく関係を築いている	日常の様子や変化をお伝えしています。必要であればゆっくりと相談を互いに行える関係を築いている。		
20	(8)	○馴染みの人や場との関係継続の支援 本人がこれまで大切にしてきた馴染みの人や場所との関係が途切れないよう、支援に努めている	現在は感染予防にて会いに行くことなどは出来ていない。玄関先での窓越しで顔を観たり写真を観たりしています。		

静岡県(グループホーム春)

自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
21		○利用者同士の関係の支援 利用者同士の関係を把握し、一人ひとりが孤立せずに利用者同士が関わり合い、支え合えるような支援に努めている	みんなで一緒にレクリエーションに参加して頂いたり家事を一緒に行っていただいたり楽しんでいただけるように支援しています。		
22		○関係を断ち切らない取組み サービス利用(契約)が終了しても、これまでの関係性を大切にしながら、必要に応じて本人・家族の経過をフォローし、相談や支援に努めている	管理者やケアマネが対応することはありません。		
Ⅲ. その人らしい暮らしを続けるためのケアマネジメント					
23	(9)	○思いや意向の把握 一人ひとりの思いや暮らし方の希望、意向の把握に努めている。困難な場合は、本人本位に検討している	フェースシートや情報提供書により意向や希望を確認しています。またご本人様との会話の中での要望もくみ取れるように努めています。		
24		○これまでの暮らしの把握 一人ひとりの生活歴や馴染みの暮らし方、生活環境、これまでのサービス利用の経過等の把握に努めている	フェースシートや情報提供書だけではなくご家族様や担当者(ケアマネなど)からも話を聞きどのように過ごされていたのか把握するように努めています。		
25		○暮らしの現状の把握 一人ひとりの一日の過ごし方、心身状態、有する力等の現状の把握に努めている	日々のバイタル測定や入浴や更衣時に全身状態の把握、生活の中での運動機能の把握などに努めている。		
26	(10)	○チームでつくる介護計画とモニタリング 本人がより良く暮らすための課題とケアのあり方について、本人、家族、必要な関係者と話し合い、それぞれの意見やアイデアを反映し、現状に即した介護計画を作成している	職員全員でモニタリングをしカンファレンスで意見交換をして介護計画を立てています。		
27		○個別の記録と実践への反映 日々の様子やケアの実践・結果、気づきや工夫を個別記録に記入し、職員間で情報を共有しながら実践や介護計画の見直しに活かしている	個々に日誌やケース記録を記入し気づきやケアの変更があった時は申し送りノートに記入し情報共有し見直しを行っています。		

静岡県(グループホーム春)

自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
28		○一人ひとりを支えるための事業所の多機能化 本人や家族の状況、その時々生まれるニーズに対応して、既存のサービスに捉われない、柔軟な支援やサービスの多機能化に取り組んでいる	入居者様の状態や変化など、その都度対応している		
29		○地域資源との協働 一人ひとりの暮らしを支えている地域資源を把握し、本人が心身の力を発揮しながら安全で豊かな暮らしを楽しむことができるよう支援している	現在は感染予防にて参加することがないが以前は地域のイベントに参加したりスーパーへ買い物に行っていた。		
30	(11)	○かかりつけ医の受診支援 受診は、本人及び家族等の希望を大切に、納得が得られたかかりつけ医と事業所の関係を築きながら、適切な医療を受けられるように支援している	協力医に往診に来ていただいています。また緊急時にも診ていただいています。また、ご家族様の希望で今までのかかりつけ医に継続して診ていただいている方もいました。		
31		○看護職との協働 介護職は、日常の関わりの中でとらえた情報や気づきを、職場内の看護職や訪問看護師等に伝えて相談し、個々の利用者が適切な受診や看護を受けられるように支援している	変化や気づきがあった時は個別に看護師の健康管理の日に報告相談しています。急な変化のあるときには電話にて相談しています。		
32		○入退院時の医療機関との協働 利用者が入院した際、安心して治療できるように、又、できるだけ早期に退院できるように、病院関係者との情報交換や相談に努めている。あるいは、そうした場合に備えて病院関係者との関係づくりを行っている	入院の際はご家族様、管理者、職員が付き添います。ご家族様との連携、医師や看護師との連携を図り早期に退院できるようにしている。		
33	(12)	○重度化や終末期に向けた方針の共有と支援 重度化した場合や終末期のあり方について、早い段階から本人・家族等と話し合いを行い、事業所でできることを十分に説明しながら方針を共有し、地域の関係者と共にチームで支援に取り組んでいる	重度化したときはご家族様と医師と管理者が話をしている。ホームで行えることなど話をしています。		
34		○急変や事故発生時の備え 利用者の急変や事故発生時に備えて、全ての職員は応急手当や初期対応の訓練を定期的に行い、実践力を身に付けている	マニュアルが誰もがみれるところにある。時々勉強会を行っている。		

静岡県(グループホーム春)

自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
35	(13)	○災害対策 火災や地震、水害等の災害時に、昼夜を問わず利用者が避難できる方法を全職員が身につけるとともに、地域との協力体制を築いている	色々な災害を想定し定期的に訓練を行っています。地域の訓練にも参加しています。		
IV. その人らしい暮らしを続けるための日々の支援					
36	(14)	○一人ひとりの人格の尊重とプライバシーの確保 一人ひとりの人格を尊重し、誇りやプライバシーを損ねない言葉かけや対応をしている	自尊心を傷つけることなくその方に合った言葉かけを行っています。		
37		○利用者の希望の表出や自己決定の支援 日常生活の中で本人が思いや希望を表したり、自己決定できるように働きかけている	本人が選択できるような声掛けを心がけ自己決定できるように働きかけています。		
38		○日々のその人らしい暮らし 職員側の決まりや都合を優先するのではなく、一人ひとりのペースを大切に、その日をどのように過ごしたいか、希望にそって支援している	レクリエーション等でもみんなに声をかけ多くの方が参加できるようにしているが、参加したくない方は自室で自由に過ごされている。その日のその方のペースに合わせている。		
39		○身だしなみやおしゃれの支援 その人らしい身だしなみやおしゃれができるように支援している	ご自分で選べる方は選んでいただいています。また選択できない方は更衣時に好みの色なのかなど確認を取るようになっています。		
40	(15)	○食事を楽しむことのできる支援 食事が楽しみなものになるよう、一人ひとりの好みや力を活かしながら、利用者と職員と一緒に準備や食事、片付けをしている	食器拭きを一緒にしたり、季節によってレクリエーションの中で季節の物(おはぎなど)作ったりしています。		
41		○栄養摂取や水分確保の支援 食べる量や栄養バランス、水分量が一日を通じて確保できるよう、一人ひとりの状態や力、習慣に応じた支援をしている	ご本人様の状態にあった物や分量を把握しなるべく好みの物を提供しています。		

静岡県(グループホーム春)

自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
42		○口腔内の清潔保持 口の中の汚れや臭いが生じないよう、毎食後、一人ひとりの口腔状態や本人の力に応じた口腔ケアをしている	声掛けにて毎食後の口腔ケアを行っています。職員が見守りや仕上げ磨きをしています。歯科衛生士に来ていただきブラッシングも行っている方もいます。		
43	(16)	○排泄の自立支援 排泄の失敗やおむつの使用を減らし、一人ひとりの力や排泄のパターン、習慣を活かして、トイレでの排泄や排泄の自立にむけた支援を行っている	訴えのある方は都度対応させて頂いております。誘導が必要な方は時間を見て対応しています。ご本人の排泄パタンの把握を共有し対応しています。		
44		○便秘の予防と対応 便秘の原因や及ぼす影響を理解し、飲食物の工夫や運動への働きかけ等、個々に応じた予防に取り組んでいる	水分を多めに摂取して頂いたりヨーグルトや根菜やキノコ類などの食材を提供するなど工夫し状況に応じて腹部マッサージなどしています。		
45	(17)	○入浴を楽しむことができる支援 一人ひとりの希望やタイミングに合わせて入浴を楽しめるように、職員の都合で曜日や時間帯を決めてしまわずに、個々にそった支援をしている	入居者様が楽しく満足できるよう名声掛けを行いながら入浴剤を使用したり会話などしている。		
46		○安眠や休息の支援 一人ひとりの生活習慣やその時々状況に応じて、休息したり、安心して気持ちよく眠れるよう支援している	ご本人様の要望あれば自室で休んでいただいています。体調やペースを大切にしています。		
47		○服薬支援 一人ひとりが使用している薬の目的や副作用、用法や用量について理解しており、服薬の支援と症状の変化の確認に努めている	薬手帳や薬効表を元に薬の確認や介助をしています。		
48		○役割、楽しみごとの支援 張り合いや喜びのある日々を過ごせるように、一人ひとりの生活歴や力を活かした役割、嗜好品、楽しみごと、気分転換等の支援をしている	ご本人様が出来る事を無理強いくことなくやっています。テレビや歌を唄うなど楽しまれています。		

静岡県(グループホーム春)

自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
49	(18)	○日常的な外出支援 一人ひとりのその日の希望にそって、戸外に出かけられるよう支援に努めている。又、普段は行けないような場所でも、本人の希望を把握し、家族や地域の人々と協力しながら出かけられるように支援している	感染予防にて外出に機会がありません。天気が良い日に戸外を散歩したり日光浴したりしています。		
50		○お金の所持や使うことの支援 職員は、本人がお金を持つことの大切さを理解しており、一人ひとりの希望や力に応じて、お金を所持したり使えるように支援している	お金を所持している方は少なです。		
51		○電話や手紙の支援 家族や大切な人に本人自らが電話をしたり、手紙のやり取りができるように支援をしている	要望があればいつでも対応するようにしています。		
52	(19)	○居心地のよい共用空間づくり 共用の空間(玄関、廊下、居間、台所、食堂、浴室、トイレ等)が、利用者にとって不快や混乱をまねくような刺激(音、光、色、広さ、温度など)がないように配慮し、生活感や季節感を採り入れて、居心地よく過ごせるような工夫をしている	光や音など不快にならないように配慮しています。また季節に応じた飾り付け等しています		
53		○共用空間における一人ひとりの居場所づくり 共用空間の中で、独りになれたり、気の合った利用者同士で思い思いに過ごせるような居場所の工夫をしている	みんなで一緒にDVDを観たりお話をされたり、ソファでくつろいでいたり自由にされています。		
54	(20)	○居心地よく過ごせる居室の配慮 居室あるいは泊まりの部屋は、本人や家族と相談しながら、使い慣れたものや好みのものを活かして、本人が居心地よく過ごせるような工夫をしている	使い慣れたものを持ち込んでいただいています。居室の壁にはホームからのプレゼントの色紙やご家族様の写真などを貼ったり居心地の良い居室にしてあります。		
55		○一人ひとりの力を活かした安全な環境づくり 建物内部は一人ひとりの「できること」「わかること」を活かして、安全かつできるだけ自立した生活が送れるように工夫している	出来る事を無理なくやっただいただいています。できるだけ自立した生活が送れるように対応しています。		

1 自己評価及び外部評価結果

【事業所概要(事業所記入)】

事業所番号	2271100873		
法人名	株式会社 日本ケアクオリティ		
事業所名	グループホーム春3F		
所在地	静岡県沼津市岡一色450-1		
自己評価作成日	令和 3年 9月 28日	評価結果市町村受理日	令和3年12月15日

※事業所の基本情報は、公表センターページで閲覧してください。(↓このURLをクリック)

基本情報リンク先 https://www.kaigokensaku.mhlw.go.jp/22/index.php?action=kouhyou_detail_022_kani=true&JigyosyoCd=2271100873-00&ServiceCd=320&Type=search

【評価機関概要(評価機関記入)】

評価機関名	株式会社 静岡タイム・エージェント		
所在地	静岡県静岡市葵区神明町52-34 1階		
訪問調査日	令和 3年 11月 6日		

【事業所が特に力を入れている点・アピールしたい点(事業所記入)】

利用者様にはご自分のペースを大切に出来る事をできる範囲でやっていただき、主体的に生活が送れるように支援しています。

【外部評価で確認した事業所の優れている点、工夫点(評価機関記入)】

V. サービスの成果に関する項目(アウトカム項目) ※項目No.1～55で日頃の取り組みを自己点検したうえで、成果について自己評価します

項目	取り組みの成果 ↓該当するものに○印	項目	取り組みの成果 ↓該当するものに○印
56	職員は、利用者の思いや願い、暮らし方の意向を掴んでいる (参考項目:23,24,25) ○	63	職員は、家族が困っていること、不安なこと、求めていることをよく聴いており、信頼関係ができている (参考項目:9,10,19) ○
57	利用者と職員が、一緒にゆったりと過ごす場面がある (参考項目:18,38) ○	64	通いの場やグループホームに馴染みの人や地域の人々が訪ねて来ている (参考項目:2,20) ○
58	利用者は、一人ひとりのペースで暮らしている (参考項目:38) ○	65	運営推進会議を通して、地域住民や地元の関係者とのつながりが拡がったり深まり、事業所の理解者や応援者が増えている (参考項目:4) ○
59	利用者は、職員が支援することで生き生きした表情や姿がみられている (参考項目:36,37) ○	66	職員は、生き活きと働いている (参考項目:11,12) ○
60	利用者は、戸外の行きたいところへ出かけている (参考項目:49) ○	67	職員から見て、利用者はサービスにおおむね満足していると思う ○
61	利用者は、健康管理や医療面、安全面で不安なく過ごせている (参考項目:30,31) ○	68	職員から見て、利用者の家族等はサービスにおおむね満足していると思う ○
62	利用者は、その時々状況や要望に応じた柔軟な支援により、安心して暮らしている (参考項目:28) ○		

自己評価および外部評価結果

自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
I. 理念に基づく運営					
1	(1)	○理念の共有と実践 地域密着型サービスの意義をふまえた事業所理念をつくり、管理者と職員は、その理念を共有して実践につなげている	理念はフロアに掲示してあります。申し送りで唱和し実践しています。		
2	(2)	○事業所と地域とのつきあい 利用者が地域とつながりながら暮らし続けられるよう、事業所自体が地域の一員として日常的に交流している	現在は中止されることが多いが地域の防災訓練や行事へ参加しています。また地域の自治会に加入している。		
3		○事業所の力を活かした地域貢献 事業所は、実践を通じて積み上げている認知症の人の理解や支援の方法を、地域の人々に向けて活かしている	運営推進会議等で認知症の理解等、話をさせて頂いています。		
4	(3)	○運営推進会議を活かした取り組み 運営推進会議では、利用者やサービスの実際、評価への取り組み状況等について報告や話し合いを行い、そこでの意見をサービス向上に活かしている	現在は書面で報告回答を得ていますが、ホームの現状や情報交換の場として活用している。		
5	(4)	○市町村との連携 市町村担当者と日頃から連絡を密に取り、事業所の実情やケアサービスの取り組みを積極的に伝えながら、協力関係を築くように取り組んでいる	市からの介護相談員さんが来られている。入居者様と話をされています。必要時は管理者とも話をされています。		
6	(5)	○身体拘束をしないケアの実践 代表者及び全ての職員が「指定地域密着型サービス指定基準及び指定地域密着型介護予防サービス指定基準における禁止の対象となる具体的な行為」を正しく理解しており、玄関の施錠を含めて身体拘束をしないケアに取り組んでいる	委員会が設置している。定期的な勉強会の実施、身体拘束をしない実践の周知等しています。夜間のみ玄関を施錠しています。		

静岡県(グループホーム春)

自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
7		○虐待の防止の徹底 管理者や職員は、高齢者虐待防止関連法について学ぶ機会を持ち、利用者の自宅や事業所内での虐待が見過ごされることがないように注意を払い、防止に努めている	身体拘束廃止委員会を中心に勉強会を行っています。常に注意を払い、防止に努めています。		
8		○権利擁護に関する制度の理解と活用 管理者や職員は、日常生活自立支援事業や成年後見制度について学ぶ機会を持ち、個々の必要性を関係者と話し合い、それらを活用できるよう支援している	勉強会は継続し行っていきたい。		
9		○契約に関する説明と納得 契約の締結、解約又は改定等の際は、利用者や家族等の不安や疑問点を尋ね、十分な説明を行い理解・納得を図っている	管理者やケアマネが入居の前に話をする機会を設け不安や相談等聞かせていただき対応しています。		
10	(6)	○運営に関する利用者、家族等意見の反映 利用者や家族等が意見、要望を管理者や職員ならびに外部者へ表せる機会を設け、それらを運営に反映させている	現在は書面ですが意見をいただけるようにしております。意見をいただいたら運営に反映できるように努めている。		
11	(7)	○運営に関する職員意見の反映 代表者や管理者は、運営に関する職員の意見や提案を聞く機会を設け、反映させている	会議や日常の業務の中で管理者やリーダーに意見を伝えてもらっています。		
12		○就業環境の整備 代表者は、管理者や職員個々の努力や実績、勤務状況を把握し、給与水準、労働時間、やりがいなど、各自が向上心を持って働けるよう職場環境・条件の整備に努めている	休憩や就業時間は決まっています。時間内でスムーズに帰れるように業務の見直しもしています。		
13		○職員を育てる取り組み 代表者は、管理者や職員一人ひとりのケアの実際と力量を把握し、法人内外の研修を受ける機会の確保や、働きながらトレーニングしていくことを進めている	社内研修や勉強会を行っています		

静岡県(グループホーム春)

自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
14		○同業者との交流を通じた向上 代表者は、管理者や職員が同業者と交流する機会を作り、ネットワークづくりや勉強会、相互訪問等の活動を通じて、サービスの質を向上させていく取り組みをしている	現在は休止中だが地域包括で行う勉強会に参加し他の施設の職員と交流したり情報交換していたりしていました。		
II. 安心と信頼に向けた関係づくりと支援					
15		○初期に築く本人との信頼関係 サービスを導入する段階で、本人が困っていること、不安なこと、要望等に耳を傾けながら、本人の安心を確保するための関係づくりに努めている	本人さまの来歴を読み込み表情を読み取りながらお話を伺い安心を確保する為の関係づくりに努めています。		
16		○初期に築く家族等との信頼関係 サービスを導入する段階で、家族等が困っていること、不安なこと、要望等に耳を傾けながら、関係づくりに努めている	ご入居者様、ご家族様の要望を聞かせていただき早期に対応するように努めています。		
17		○初期対応の見極めと支援 サービスを導入する段階で、本人と家族等が「その時」まず必要としている支援を見極め、他のサービス利用も含めた対応に努めている	情報を元に計画書を作成している。その時に必要であれば福祉用具等の用意もしています。		
18		○本人と共に過ごし支えあう関係 職員は、本人を介護される一方の立場におかず、暮らしを共にする者同士の関係を築いている	日常の家事を通して「ありがとう」「●●さんがいてくれないと。。。』など声をかけ共に生活する者同士の関係を築いています。		
19		○本人を共に支えあう家族との関係 職員は、家族を支援される一方の立場におかず、本人と家族の絆を大切にしながら、共に本人を支えていく関係を築いている	面会はいつでもできる状況。(現在は窓越し)面会が難しいご家族もいるのでリモートで面会したりしています。		
20	(8)	○馴染みの人や場との関係継続の支援 本人がこれまで大切にしてきた馴染みの人や場所との関係が途切れないよう、支援に努めている	現在は感染予防でなじみのところへ出かける事が無いですが、ご本人様の出身地域で起きたことなどをお伝えしながら昔のお話を伺ったり思いを寄せる機会にしている。		

静岡県(グループホーム春)

自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
21		○利用者同士の関係の支援 利用者同士の関係を把握し、一人ひとりが孤立せずに利用者同士が関わり合い、支え合えるような支援に努めている	入居者様同士で話をされています。トラブルになりそうなときには職員が間に入り対応しています。		
22		○関係を断ち切らない取組み サービス利用(契約)が終了しても、これまでの関係性を大切にしながら、必要に応じて本人・家族の経過をフォローし、相談や支援に努めている	管理者やケアマネが対応しています。		
Ⅲ. その人らしい暮らしを続けるためのケアマネジメント					
23	(9)	○思いや意向の把握 一人ひとりの思いや暮らし方の希望、意向の把握に努めている。困難な場合は、本人本位に検討している	カンファレンス時に入居者様の意向や希望をまとめ、その人らしい暮らしを続けていけるように検討している。		
24		○これまでの暮らしの把握 一人ひとりの生活歴や馴染みの暮らし方、生活環境、これまでのサービス利用の経過等の把握に努めている	ご家族様や担当者などに話を聞かせていただき情報共有し把握に努めている。		
25		○暮らしの現状の把握 一人ひとりの一日の過ごし方、心身状態、有する力等の現状の把握に努めている	日々の介助時に発せられる言葉や様子等で一人一人に現状の把握に努めている。		
26	(10)	○チームでつくる介護計画とモニタリング 本人がより良く暮らすための課題とケアのあり方について、本人、家族、必要な関係者と話し合い、それぞれの意見やアイデアを反映し、現状に即した介護計画を作成している	各職員にモニタリング用紙を配布し意見やアイデアを出し合い現状に即した介護計画を作成しています。		
27		○個別の記録と実践への反映 日々の様子やケアの実践・結果、気づきや工夫を個別記録に記入し、職員間で情報を共有しながら実践や介護計画の見直しに活かしている	職員間でケアや工夫したことなど共有し見直しを行ったりしています。		

静岡県(グループホーム春)

自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
28		○一人ひとりを支えるための事業所の多機能化 本人や家族の状況、その時々生まれるニーズに対応して、既存のサービスに捉われない、柔軟な支援やサービスの多機能化に取り組んでいる	状態の変化など、その都度対応しています。		
29		○地域資源との協働 一人ひとりの暮らしを支えている地域資源を把握し、本人が心身の力を発揮しながら安全で豊かな暮らしを楽しむことができるよう支援している	職員と近くのコンビニに出かけたり買い物に出かけたりしていたが最近は感染予防でできていない。		
30	(11)	○かかりつけ医の受診支援 受診は、本人及び家族等の希望を大切に、納得が得られたかかりつけ医と事業所の関係を築きながら、適切な医療を受けられるように支援している	協力医の月二回の全体往診と個人往診にきている。本人や家族の希望に沿った医療を提供しています。緊急時は昼夜問わず医療者と連絡が取れます。		
31		○看護職との協働 介護職は、日常の関わりの中でとらえた情報や気づきを、職場内の看護職や訪問看護師等に伝えて相談し、個々の利用者が適切な受診や看護を受けられるように支援している	週一回は健康管理できています。体調の変化や相談などしています。また緊急時にも相談しています。		
32		○入退院時の医療機関との協働 利用者が入院した際、安心して治療できるように、又、できるだけ早期に退院できるように、病院関係者との情報交換や相談に努めている。あるいは、そうした場合に備えて病院関係者との関係づくりを行っている	主治医・看護師・ご家族・管理者・介護士が情報共有し早期退院が出来るようにしている。		
33	(12)	○重度化や終末期に向けた方針の共有と支援 重度化した場合や終末期のあり方について、早い段階から本人・家族等と話し合いを行い、事業所でできることを十分に説明しながら方針を共有し、地域の関係者と共にチームで支援に取り組んでいる	入居時にあらかじめ医療の方針を伺っています。重度化や終末期には主治医とご家族が話し、希望に沿った対応をさせて頂いています。		
34		○急変や事故発生時の備え 利用者の急変や事故発生時に備えて、全ての職員は応急手当や初期対応の訓練を定期的に行い、実践力を身に付けている	緊急時等はマニュアルに沿った対応をしています。マニュアルは誰もがみれるおところにあります。		

静岡県(グループホーム春)

自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
35	(13)	○災害対策 火災や地震、水害等の災害時に、昼夜を問わず利用者が避難できる方法を全職員が身につけるとともに、地域との協力体制を築いている	防災委員会を中心に点検や訓練を定期的に行っています。また色々な災害想定をしています。		
IV. その人らしい暮らしを続けるための日々の支援					
36	(14)	○一人ひとりの人格の尊重とプライバシーの確保 一人ひとりの人格を尊重し、誇りやプライバシーを損ねない言葉かけや対応をしている	気持ちを尊重し無理のないようにケアさせて頂いています。		
37		○利用者の希望の表出や自己決定の支援 日常生活の中で本人が思いや希望を表したり、自己決定できるように働きかけている	ご本人が自己決定できるような言葉かけをし対応しています。		
38		○日々のその人らしい暮らし 職員側の決まりや都合を優先するのではなく、一人ひとりのペースを大切に、その日をどのように過ごしたいか、希望にそって支援している	一人一人のペースに合わせ自由に過ごしていただいています。		
39		○身だしなみやおしゃれの支援 その人らしい身だしなみやおしゃれができるように支援している	その方の週間にしてきたことを大事にしたり、好きな洋服を着ていただいたりしています。		
40	(15)	○食事を楽しむことのできる支援 食事が楽しみなものになるよう、一人ひとりの好みや力を活かしながら、利用者と職員と一緒に準備や食事、片付けをしている	盛り付けなどを一緒に行ったり食器を拭いたり一緒に行うようにしています。以前は職員も一緒に会話を楽しみながら食事をしていましたが感染予防にて今は出来ていない。		
41		○栄養摂取や水分確保の支援 食べる量や栄養バランス、水分量が一日を通じて確保できるよう、一人ひとりの状態や力、習慣に応じた支援をしている	本人の好みの飲み物を提供したりいろいろな食材を使用し栄養バランスを保っています。食べやすい形態での提供に努め個々の必要量が接種出来るように行っている。		

静岡県(グループホーム春)

自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
42		○口腔内の清潔保持 口の中の汚れや臭いが生じないよう、毎食後、一人ひとりの口腔状態や本人の力に応じた口腔ケアをしている	口腔ケアの声掛けや歯科医、歯科衛生士介入。職員が仕上げ磨き等している。		
43	(16)	○排泄の自立支援 排泄の失敗やおむつの使用を減らし、一人ひとりの力や排泄のパターン、習慣を活かして、トイレでの排泄や排泄の自立にむけた支援を行っている	その方の排泄パターンの把握に努めている。訴えがあれば失敗する前に対応している。		
44		○便秘の予防と対応 便秘の原因や及ぼす影響を理解し、飲食物の工夫や運動への働きかけ等、個々に応じた予防に取り組んでいる	水分摂取の声掛けやキノコ類や根菜類の提供。体操などもしています。		
45	(17)	○入浴を楽しむことができる支援 一人ひとりの希望やタイミングに合わせて入浴を楽しめるように、職員の都合で曜日や時間帯を決めてしまわずに、個々にそった支援をしている	3日に1回のペースで入浴できるようにしています。入浴剤を使用したり楽しく入浴できるようにその方に合ったペースタイミングでの対応をしています。		
46		○安眠や休息の支援 一人ひとりの生活習慣やその時々状況に応じて、休息したり、安心して気持ちよく眠れるよう支援している	ご本人様の要望やペースに合わせて休息して頂けるようにしています。		
47		○服薬支援 一人ひとりが使用している薬の目的や副作用、用法や用量について理解しており、服薬の支援と症状の変化の確認に努めている	個々の薬の目的や副作用については理解をすべてできているとは言い切れないが症状の変化については都度、医療者へ報告し連携をとっています。		
48		○役割、楽しみごとの支援 張り合いや喜びのある日々を過ごせるように、一人ひとりの生活歴や力を活かした役割、嗜好品、楽しみごと、気分転換等の支援をしている	家事やDVD鑑賞等、その方に合ったことをしていただいています。		

静岡県(グループホーム春)

自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
49	(18)	○日常的な外出支援 一人ひとりのその日の希望にそって、戸外に出かけられるよう支援に努めている。又、普段は行けないような場所でも、本人の希望を把握し、家族や地域の人々と協力しながら出かけられるように支援している	現在は感染予防にて出来ていないが誕生日に食事に出かけたりご家族と家に行ったりしていた。地域の行事にも参加していました。		
50		○お金の所持や使うことの支援 職員は、本人がお金を持つことの大切さを理解しており、一人ひとりの希望や力に応じて、お金を所持したり使えるように支援している	お金の管理に関しては一部の方のみ。ご自身で管理している方もいるが物とられの原因になっている方もいるので難しいなど感じている。		
51		○電話や手紙の支援 家族や大切な人に本人自らが電話をしたり、手紙のやり取りができるように支援をしている	ご本人の希望に沿って対応しています。		
52	(19)	○居心地のよい共用空間づくり 共用の空間(玄関、廊下、居間、台所、食堂、浴室、トイレ等)が、利用者にとって不快や混乱をまねくような刺激(音、光、色、広さ、温度など)がないように配慮し、生活感や季節感を採り入れて、居心地よく過ごせるような工夫をしている	みんなで行事の飾りを作ったりしています。また温度や光、音など快適に過ごせるように配慮しています。		
53		○共用空間における一人ひとりの居場所づくり 共用空間の中で、独りになれたり、気の合った利用者同士で思い思いに過ごせるような居場所の工夫をしている	食席で相性の悪い方と離させて頂いたり、ソファで一人で休まれたりできる空間を利用して頂いております。		
54	(20)	○居心地よく過ごせる居室の配慮 居室あるいは泊まりの部屋は、本人や家族と相談しながら、使い慣れたものや好みのものを活かして、本人が居心地よく過ごせるような工夫をしている	使い慣れたものを持ち込んでいただいています。ご家族様との写真を貼ってある方もいます。今までの生活と変わりがないようにしています。		
55		○一人ひとりの力を活かした安全な環境づくり 建物内部は一人ひとりの「できること」「わかること」を活かして、安全かつできるだけ自立した生活が送れるように工夫している	その方の能力を見て手すりの使用や声掛け今までの長いアプローチを利用した車いすでの運動を兼ねた動作を行っていただいています。安全面については見守りや声掛けを個人の能力に応じ行っています。		